

H27 学校評価(自己評価)

1 評価の方法

「A-そう思う」を4点、「B-ややそう思う」を3点、「C-あまりそう思わない」を2点、「D-そう思わない」を1点、「E-わからない」を0点とし、その合計を回答者で割り、平均点として示した。

なお、「E-わからない」については、職種によって判断できないが生じるので、この項を設定した。「E」の回答数は、回答者数から除いた。

回答者数 32名

2 総括

4段階評定(A 4点, B 3点, C 2点, D 1点, E 0点とした平均)で3点以上の場合は、基本的には良好な評価を得られたと判断すると、本年度はおおむね良好であったといえる。ただし、3点前後の項目については、意識的に取り組むことが必要であり、更なる改善が必要と思われる。これらの項目については、生徒用アンケート、保護者用アンケートの結果を参考に分析を進めて、改善の手立てをつくり、来年度での向上を図りたい。また、意見が寄せられた項目については、より良い学校運営がなされるよう改善を図る。

3 評価結果および考察と改善の手立て

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答者数	4段階評	生徒	保護者	意見
1 学校教育目標に関する事	①教育目標	1 学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	14	16	2	0	0	32	3.4			<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい教育目標で取り組みやすい。 ・4 やり抜く生徒 の清掃等については、改善すべきところである。
		2 職員の共通理解のもと、学校教育目標などを踏まえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	9	21	2	0	0	32				
	考察	肯定的な評価が多かった。学校教育目標は生徒の実態に即応し、継続されている学校教育目標である。各自が意識をもち、今年度の重点目標を踏まえて教育活動にあたりたい。校内研と関連付けをもち、目標達成のための実践として積み上げたい。生徒や保護者に、より周知を図る必要がある。										
	項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答者数	4段階評	生徒	保護者
2 学校経営に関する事	②教育課程管理	3 各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	7	13	8	0	2	30	2.8			<ul style="list-style-type: none"> ・昨年より改善されていると思う。 ・授業時数確保のための行事等の見直しが必要である。 ・曜日により偏りがあったり、授業時数の差が出てしまった。
		4 道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	3	13	10	2	2	30				
	考察	昨年度での評価結果と同じく、改善を要する評価結果となった。今年度は、校内研究の充実を図りながら、指導と評価の一体化に取り組み、指導計画・評価計画の充実を進めてきたが、改善には至らなかった。また、3学期制として1学期中間テストを実施するなど取り組んだが、成果とはならなかった。来年度から新しい教科書を使って授業が進められる。これをよい機会ととらえ、教育課程年間指導計画を見直して改善を図りたい。各領域における関連と調和を図った教育課程づくりを進めることも必要である。改善の手立てをつくり対応を図りたい。										
	改善の手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の重点事項として、取り組みを強化する。 ・年間指導計画を関連と調和を図って作成する。評価計画を併せもつように作成する。 ・1学期中間テストは省略する。その分、単元テストを各教科で必ず行う。単元テストによる評価を指導・評価計画の中に位置づける。 ・総合については、3年間を見通した計画をつくり、各学年ごとの評価の観点をきちんと設定する。 ・「教育課程の編成について」のページを設けて、改善点について、新年度職員会議で職員の共通理解を図り実施する。 ・行事の精選については、来年度行事予定を作成しながら検討を加える。(体力づくり一校一実践としてのプロジェクトWは、省略する。) ・道徳の授業改善を図る。(学年で、指導案の検討を進める。「私たちの道徳」の利用を進める。授業参観のうちの1回を全学級道徳で実施する。) 										

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答 人数	4段 階評	生徒	保護者	意見	
2 学校経営 に関すること	③学校運 営組織	5 学校運営にふさわしい校務分掌(組織 や個人)がなされ、それぞれ適切に機能 している。	8	22	2	0	0	32	3.2			・適切に機能していない部分がある。	
		6 教職員が相互理解や信頼関係を深め、 協働体制で校務や教育活動などに当 たっている。	15	13	4	0	0	32					3.3
		7 管理職・教職員・学年・各分掌などで、報 告・連絡・相談・確認が学校全体として 機能している。	13	17	1	0	0	31	3.4			・機能している。 ・全体一学年間の意思疎通がされていない場面が見受けられた。	
	考察	・おおむね肯定的な評価である。校務分掌によりの確な機能と職員の協働体制がみられている。報告・連絡・相談については意識の向上が見られ組織としての学校づくりが進められて いる。このままの組織経営を継続して、学校全体が機能して教育活動に当たりたい。											
項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答 人数	4段 階評	生徒	保護者	意見	
2 学校経営 に関すること	④安全管 理	8 教職員が、生活安全・防災・防犯・情報 管理などに危機管理意識を持ち、マニ ユアル等が整備され、適切に点検・管理を 行っている。	12	18	2	0	0	32	3.3				・意識が低い。研修をしてきた先生の全体への還元を含めた研修が必要である。 ・防犯について徹底した方がよい。
		9 防災計画により大規模地震災害や火災 発生時の緊急体制が整備され、避難訓 練等防災教育が適切に実施されてい る。	14	16	2	0	0	32					
	⑤保健管 理	10 健康診断・心身の健康相談の他健康 教育指導を行い、生徒の健康管理能力の 育成を図っている。	16	16	0	0	0	32	3.5				・精神的にフォローしていかなければならない生徒が多い。
		11 学校・家庭・地域が連携した健康・安全 と食教育の推進に努めている。	16	13	2	1	0	32					
	考察	・おおむね肯定的な評価である。今後もこのような取組が進められ、生徒・職員とも意識向上を高めていきたい。 ・教育課程を見直し、作成する時に行事等の見直しもし、授業時数の確保できるようにしたほうが良い。あと、福井の例を取り入れて多学年にまたがるようにし、定期的に校内教科研を 実施するとよいのでは。校内研で職員全体で学習することも大切だが、少人数で研修することも必要だと思う。											
項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答 人数	4段 階評	生徒	保護者	意見	
2 学校経営 に関すること	⑥特別支 援教育	12 教職員の共通理解のもとで特別支援 教育の体制が整えられ、計画的、効果的 な指導を行っている。	11	13	7	1	0	32	3.1				・直接担当の先生が苦勞しているが全体に浸透しない。 ・職員全体で共通理解の場が欲しい(教員会議や校内研で)。
		13 専門機関などとの連携を図り、特性や障 害に応じた指導計画の作成や適切な指 導を行っている。	9	15	6	1	1	32					
	⑦研修	14 教育課題に対応した校内研究が企画さ れ、意欲的、積極的に取り組んでいる。	11	14	6	1	0	32	3.1			・何をするかについて共通理解はもってもらえていると思う。 ・もう少しシンプルに的を絞って計画的に行えるとよいと思います。 ・研究授業の実施時期に問題がある。 ・多忙ななか研究内容を精選する必要があると思います。	
		考察	昨年度ほぼ同等なおおむね肯定的な評価である。特別支援教育については、多数の在籍者に不安があったが、担当の先生方の熱心な取組により、満足できる成果を残してきている。 専門機関との連携も図られている。普通学級に在籍しながら障害をもつ疑いのある生徒への対応を考え、ニーズに応えられるよう特別支援教育校内委員会を通じた実践を図りたい。 校内研究では、指導主事を招聘し、充実した授業研究ができた。異校種間交流の職員を交えて研究を進められるなど、貴重な授業提案がされる研究になった。学力の向上は、授業 づくりからして教師の授業力を高める研究体制を推進していきたい。										
改善の手立て	・特別支援教育校内委員会の充実を図る。(学期に1回程度は開催する。年間行事予定に位置づける。) ・職員会議で、① 特別支援教育に関する内容、② 生徒指導に関する内容、③ 不登校生徒に関する内容 で全体での共通理解ができるよう取り組む。 ・校内研究では、全員が参加できる研究内容を考えて実践が伴うよう計画を進める。特に、指導主事による指導が得られる研究計画を作成する。												

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	生徒	保護者	意見	
3 学習指導に関すること	⑧学習指導	授業の中で、言語活動を推進し、互いが学び合う学習指導の工夫をして基礎的・基本的な内容の確実な習得に努めている。	7	20	3	0	0	30	3.1	3.1	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・やろうとする機運はできているのではないと思う。 ・あらゆる授業で、基本的なきく姿勢、発表の姿勢、声の大きさなどを習慣化させたい。 ・座席の配置について再考の必要がある。 	
			28	60	6	0	0						
	⑨進路指導	授業のねらいを意識させる中で、教材教具や展開の工夫を行い、基礎基本の定着と活用力を育てる授業方法の改善に努めている。	9	19	1	0	1	30	3.2	3.2	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にできた。 ・取り組もうと努めているように思う。 ・教材等の工夫を自分自身さらに学んでいきたいと思う。 	
			36	57	2	0	0						
		観点別学習状況の評価・評定を明確にし、信頼性を確保し、説明責任が果たせるよう努めている。	8	20	1	0	1	30	3.1	/	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価の仕方について説明している。 ・教科、教師によって基準に差があるように思えます。全員で学習したいと思います。 	
			32	60	2	0	0						
		文化芸術活動や読書活動また、様々な体験活動を通して、豊かな感性を育てている。	9	16	5	1	0	31	3.1	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書などもう少し中身のあるものをよませていきたい。 ・朝読書が形骸化している。やるなら教師も同じスタンスで。 	
			36	48	10	1	0						
	考察		昨年度の評価とほぼ同じ結果となった。言語活動を推進しながら、思考力・判断力を高める授業づくりをさらに進めていきたい。研究の成果として、自らの授業実践にもとづいて、一人一実践、一校一実践としての成果に結びつける必要がある。特に、生徒の評価は、基礎的基本的な知識理解の習得などに課題が見られる結果となっている。読書への取組の充実を図りたい。										
	項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	生徒	保護者	意見
4 生徒指導に関すること	⑩生徒指導	生徒指導目標が設定され、生徒指導(いじめ・問題行動・不登校)の組織、分担などの実効的な生徒指導体制が整備されている。	15	16	1	0	0	32	3.4	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・会議がもてて早い対応ができていると思う。 ・全体で検討する機会が少ない。 	
			60	48	2	0	0						
		いじめ・問題行動や不登校の予防、早期発見や解決に向けて、全校体制で適切に指導に取り組んでいる。	13	18	1	0	0	32	3.4	3.3	/	<ul style="list-style-type: none"> ・予防には難しいものがあるが、体制をつくり取り組んでいると思う。 ・一部で対応している感が否めない。 	
			52	54	2	0	0						
		生徒会活動や特別活動等を通して、生徒の自主性・主体性を育成し、自治的な望ましい集団活動の充実を図っている。	9	19	4	0	0	32	3.2	3.5	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・教師主導から脱しつつある運営がなされている。 ・学年組織で主体的に活動できる場面を設定している。 ・組織が大きいの難しい点があるが、頑張っていると思う。 ・生徒会本部はよいが、委員会活動が今一步である。 	
			36	57	8	0	0						
		生徒一人一人の特性を理解した適切な指導・支援により生徒の自覚と自立を育成している。	7	20	4	0	0	31	3.1	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれニーズに適した対応をしている。 ・努力していると思う。 	
			28	60	8	0	0						
		道徳・特別活動などで、聴きあい伝え合う人間関係づくりをもとに自分を生かし他に役立つ心の育成に取り組んでいる。	6	18	7	0	1	32	2.9	3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・努力していると思う。 ・道徳・特別活動に限らず、授業の中で聴きあうことが不十分である。 	
			24	54	14	0	0						
考察		生徒指導についてはおおむね高い評価である。学校全体での統一した指導、教師の危機意識、情報の共有化等が見られてきている。今後も継続して取り組みたい。生徒理解に基づいた生徒の特性に応じた指導や支援の方法を実践する必要がある。道徳・特別活動に関して授業の確保や充実についてや、聴きあい伝え合うことへの課題があげられ、改善が必要である。											
改善の手立て		<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で、① 特別支援教育に関する内容、② 生徒指導に関する内容、③ 不登校生徒に関する内容 で全体での共通理解ができるよう取り組む。 ・「生徒理解に基づく生徒指導」を進める。そのために、家庭訪問、三者懇談の機会を設け、内容の充実を図る。さらに、実態把握としての調査、アンケートの充実を図る。 ・生徒指導部会での検討事項が、各学年と密接に結びつくよう組織の強化を進める。 ・「生活ノート」の利用を確認し、実践する。(きまりや規則の再確認を本年度中に行い教育課程との整合性を保つ。記述されている内容の点検を行う。) 											

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	生徒	保護者	意見
5 保護者・地域社会との連携に関すること	⑪保護者・地域との連携	生徒・保護者からの学校生活の悩みや進路などの相談を真剣に受け入れている。	12	20	0	0	0	32	3.4	3.3	3.2	・誠意をもって対応していると思う。 ・無理な要望もある。
			48	60	0	0	0					
		保護者と連携して教育活動を進めるよう、HP・たより・電話・家庭訪問などで情報提供をしている。	12	17	3	0	0	32	3.3	3.4	3.5	・努力していると思う。
			48	51	6	0	0					
地域の教育資源を活用した教育活動を推進している。	6	19	7	0	0	32	3.0		3.3	・授業や総合などの講師として有効であった。 ・人材の活用ができていくように思う。		
	24	57	14	0	0							
		道徳実践力を育て、保護者や地域社会と連携して、しなやかな心の育成を図っている。	4	15	12	1	0	32	2.7			・家庭の教育力の低下による生徒への弊害を軽減できるような手立てに努力しているがなかなか成果が出ない。 ・保護者・地域との連携が難しいと思う。
			16	45	24	1	0					
	考察	生徒の悩みや相談を真剣に受け入れているという点で教師側の評価は比較的高いが、生徒、保護者ではそれほどでもない。学校からの情報発信についての評価は高い。特に、保護者の評価が高い。今後も、HPの充実およびブログでの学校の様子を発信していきたい。地域の教育資源の活用については、多様な生き方、考え方、存在を認め合うしなやかな心の育成をねらいとして、さらに改善を図りたい。										
	改善の手立て	<ul style="list-style-type: none"> 各主任を中心に、地域と結びついた施設の利用、人材の利用として取り組む。地域人材の活用であることを教師間で確認して取り組みを進める。 保護者・地域との連携として、地区懇談会が開かれている。意識を高めて開催したい。道徳実践力を発揮する地域との連携を深めるよう計画する。 小中連携を進め、互いの立場を理解しながら生徒の成長が見とれるよう取り組む。(中学教師による出前授業、小中での生徒に関する情報や、地域実態に関する情報交換など) たよりや学校HPでの情報公開を今後とも進める。 										
項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	生徒	保護者	意見
6 施設・設備に関すること	⑫施設・設備	学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	16	14	1	0	0	31	3.5			
			64	42	2	0	0					
		教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品など、整備・充実している。	12	18	1	1	0	32	3.3			3.4
	48	54	2	1	0							
	考察	・おおむね、高い評価になっているが、新校舎になって7年目になり、そろそろいろいろなところに故障修理等が必要となってきている。生徒が破損したときの指導として、素直に謝ることができる謙虚さを育てていきたい。道徳の授業の充実を図りたい。										
項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	4段階評価	生徒	保護者	意見
7 学校の特色に関すること	⑬学校の特色	生徒は、楽しく目標をもって学校生活を送っている。	9	21	2	0	0	32	3.2	3.3	3.4	
			36	63	4	0	0					
	考察	・教師・生徒・保護者ともに「生徒は充実した楽しい学校生活を送っている」と感じている。とても素晴らしいこととして、この状況の継続に一層励みたい。										
その他		<ul style="list-style-type: none"> 年間行事予定と教育課程の関連・連携を基本にした見直しが必要である。現在担当している学年の中で話し合い、必要により、次年度での可否を全体に図る。(運営委員会－職員会議－校長) 特に、総合的な学習の3年間の教育課程の見直し、喫緊の課題である(テーマに沿って考え直す)。 特に、全職員で意識して生徒指導にあたることを大切にしたいと考える。学年ごとではなく、一人の生徒に対して指導することが学年に関係なくどの職員でもできなければならないと思う(特に、服装、頭髪、時間を守ること清掃活動など)。生徒が比較的落ち着いた今だからこそ、細かいところに目を向ける必要があると思う。 道徳に力を入れて、生徒が授業以外の場面でライフスキルを学び、生活に生かせるようにしたい。 授業参観も土曜(日曜)に実施、地域、保護者へ本校の道徳実践を発信したらどうか?また、その実践の後、教師、保護者、地域で話し合いを持ち、「これからの西中を考える会」などを開き、意見交換をしてもよいと思う。※夏の地区懇談会のあらたな形として。 2学期の行事を精選するべき。生徒も教師も余裕が必要。 										
	改善の手立て	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した教育課程の編成に向けて全力を挙げる。 道徳教育の充実に向けた取り組みを行う。 										